

令和8年度 健康づくり関連事業について

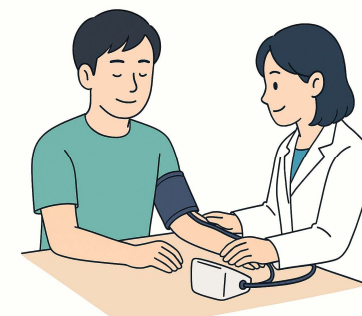
1. ヤング健診事業

関連する分野別の取組
⑤健診・検診受診
⑥生活習慣病予防・重症化予防

従来事業内容の見直し（概要）

【これまで】 対象年齢：35～39歳
開催回数：年4回

【令和8年度】 対象年齢：**20**～39歳へ拡大
開催回数：年**6**回に増加（※対象年齢拡大に伴う対応）
新たな取組：子育て世代の受診促進を目的に**託児サービス**を実施



○対象年齢拡大の経緯

- ・若年層における生活習慣病の発症ややせすぎによる健康リスクが指摘されている。
- ・生活習慣病は自覚症状が乏しいまま進行するため、若年期からの予防が重要

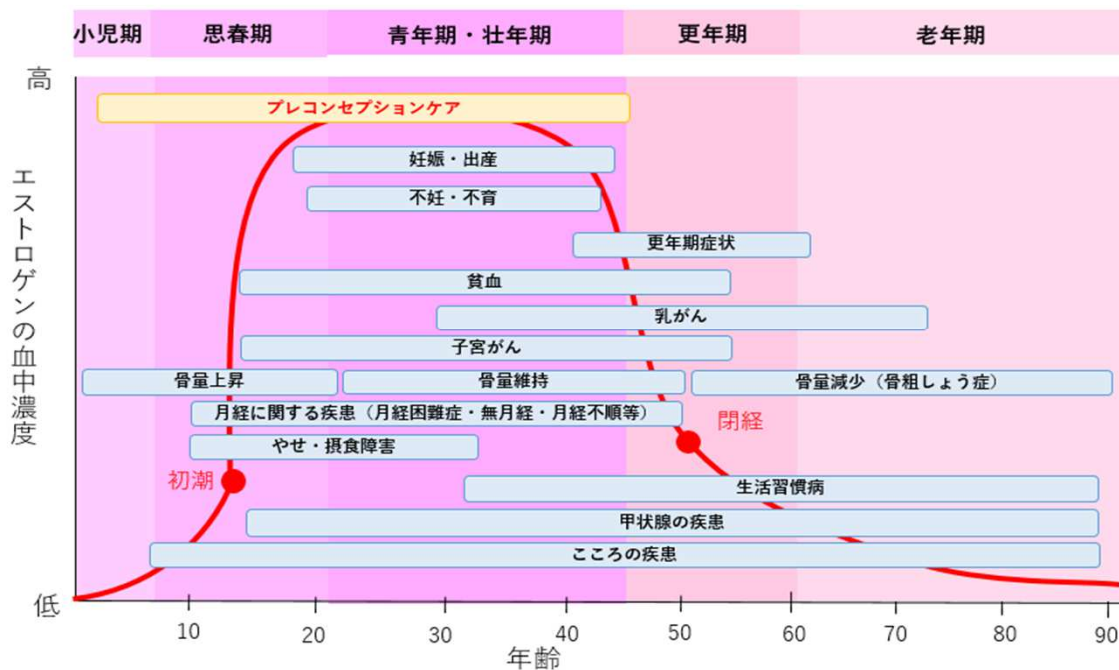
➡ こうした健康課題や県内他市町村の実施状況を踏まえ、対象年齢を拡大

2. 女性の健康づくり支援事業について

- 関連する分野別の取組**
- I ① 栄養・食生活
 ② 歯の健康
 ④ 母子保健
 ⑤ 健診・検診受診
 ⑥ 生活習慣病予防・重症化予防
 ⑦ フレイル対策

○取組の経緯

- 「第3次健康日本21」において、「女性の健康」が新たに位置づけられ、女性の健康週間が明記
- 女性はライフステージごとにホルモン変化が大きく、人生の各段階に応じた健康支援が重要
- やせすぎ、月経不調、更年期障害、骨量の低下、がん等女性特有の健康課題が顕在



参考 厚生労働省 「女性の健康推進室 ヘルスケアラボ」

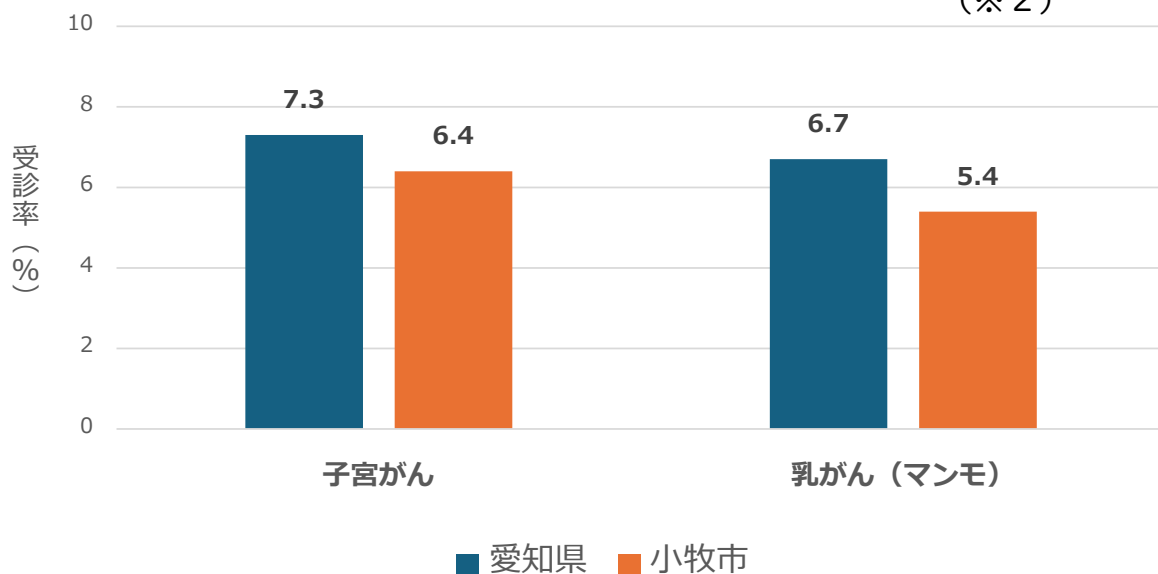
2. 女性の健康づくり支援事業について

○小牧市の現状

- ・後期高齢者医療制度において入院医療費の疾病別割合で骨折が第1位とされており、本市では骨粗しょう症患者の約10人に9人が女性（※1）である。
- ・令和7年2月～9月に実施した骨密度測定の結果より、女性347名のうち、20～40代女性は196名であった。そのうち、157名（80.1%）が同年代平均骨梁面積面積率を下回った。

がん検診受診率

（※2）



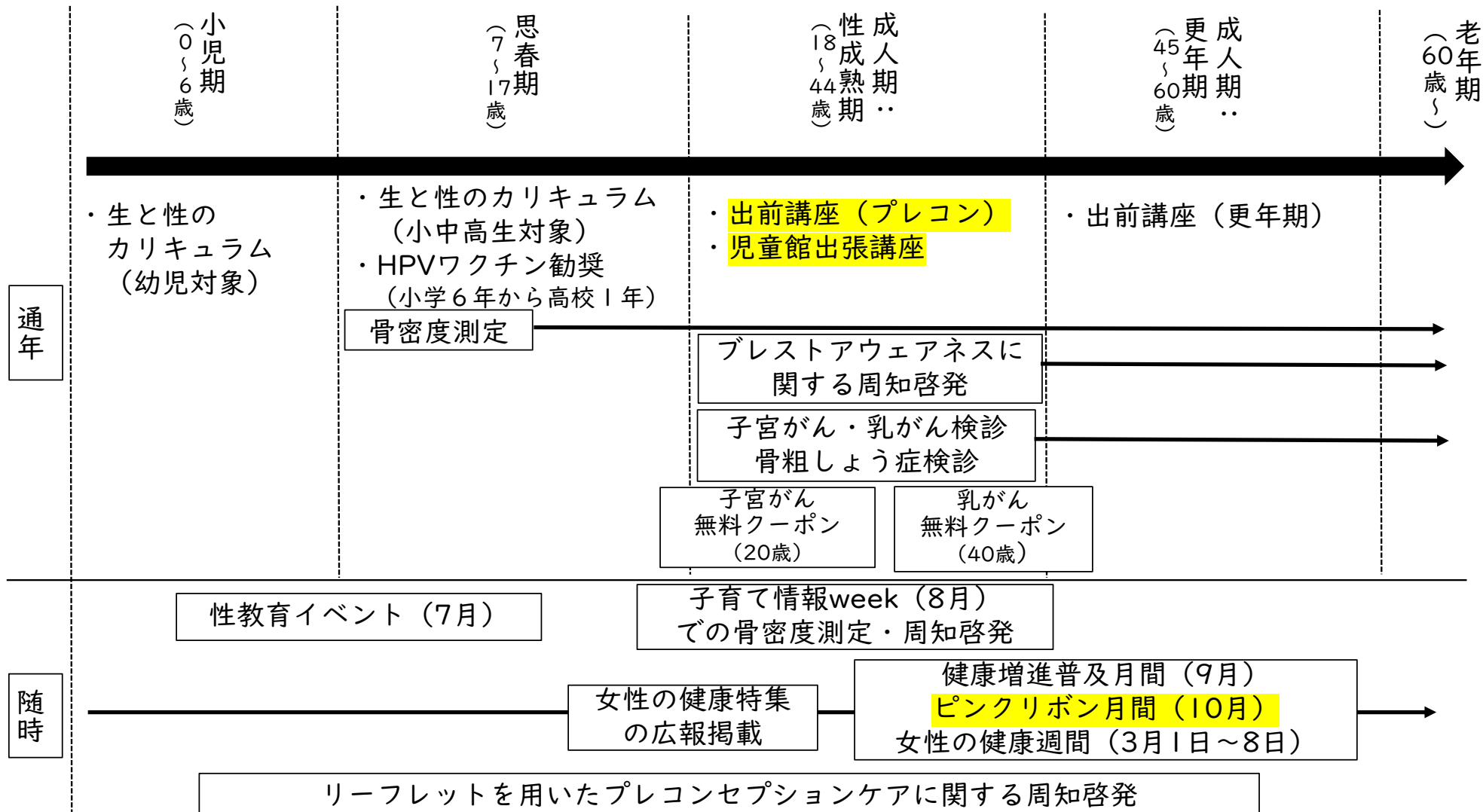
◎骨粗しょう症とは、骨密度が低下し、骨がもろくなる状態で、軽い転倒や咳、日常動作でも骨折しやすくなり、特に、高齢者では骨折が寝たきりや要介護状態の原因となる。

◎女性の骨量は思春期から増加し、20歳頃に最大骨量に達し、閉経後急激に減少する。

※1 令和5年度後期高齢者医療制度KDBデータより

※2 愛知県令和6年度がん検診の実施状況より

今年度の取組について



今年度の取組について

○女性の健康全般

- ・令和9年3月号広報での特集記事の掲載

○プレコンセプションケア

- ・市内の幼保小中高校における生と性のカリキュラム

- ・（新規）若年層を対象としたプレコンセプションケア出前講座

○女性特有のがん等に係る検診の受診勧奨及び正しい知識の普及

- ・乳・子宮がん、骨粗しょう症検診の受診勧奨

- ・HPVワクチンの定期予防接種の接種勧奨

- ・ブレストアウェアネスの普及啓発

→（新規）児童館における出張講座

- ・ピンクリボン月間の啓発

→（新規）ウォーキングアプリalkoとの連携

○更年期

- ・市民とした更年期に係る正しい知識の普及・講座

○骨粗しょう症予及び企業を対象防

- ・各世代における骨粗しょう症予防に係る正しい知識の普及・骨密度測定



< 昨年の更年期講座の様子 >



< 昨年のピンクリボン月間の取組 >



3：健康づくり関連イベント

- 関連する分野別の取組**
- I ① 栄養・食生活
 ② 歯の健康
 ④ 母子保健
 ⑤ 健診・検診受診
 ⑥ 生活習慣病予防・重症化予防
 ⑦ フレイル対策
- II. 社会で支える健康づくり

1. 趣旨

ライフステージや健康課題に応じたイベントを年間を通じて展開し、小牧市健康づくり推進プランの推進を図る。ヘルスラボ・こまきを拠点とし、市民の皆様の健康への「気づき」から「習慣化」を支援する事業を展開する。

2. 年間スケジュール

	時期	イベント名	ターゲット	目的	状況
①	8月	食育イベント	子ども・親	食習慣の定着・栄養課題解決	詳細確定
②	9月	健康増進普及月間	一般市民	健康知識の普及・啓発	企画検討中
③	11月	世界糖尿病デー	一般市民	糖尿病に関する知識の普及・重症化予防	企画検討中
④	1月 (予定)	健康フェア(仮)	一般市民	健康習慣化 ヘルスラボ・こまき利用促進	企画検討中

3：健康づくり関連イベント

3. 直近開催イベントの詳細

① 食育イベント「おやこ食育DAY～みて、さわって！あそびながら五感で楽しむ食育体験～」 (食育専門部会)

日 時：令和8年8月1日(土) 10時～15時30分

※同日、まなび創造館アリーナにて「子育て情報week」開催

会 場：ヘルスラボ・こまき

テーマ：「五感で楽しむ食育」

対 象：未就学児の親子

目 的：食べることへの興味・関心を高めるとともに、望ましい食習慣の形成と
食育の理解促進を図る。

内 容：体験コーナー、パネル展示、講座(五感を使うことの大切さ、噛むことや供食の重要性)

協 力：名古屋経済大学



< 今年の講座の様子 >

3：健康づくり関連イベント

4. 今後のイベント予定（詳細）

② 健康増進普及月間（9月）

（保健センター、健康生きがい推進課）

会場：小牧市中央図書館イベントスペース

目的：健康的な生活習慣を知る機会を提供することで健康意識を高め、
生活習慣病の予防や健康寿命の延伸を目指す。

内容：講座や測定会、展示



< 今年の展示の様子 >



< 今年の講座の様子 >

3：健康づくり関連イベント

③ 世界糖尿病デー（11月）（糖尿病対策専門部会）

【ブルーライトアップ】

目的：糖尿病に関する知識や関心を持たない層に対し、糖尿病への理解および健康意識向上のきっかけを提供する

方法：市内各所におけるブルーライトアップ・ブルーサークルの実施

【イベント】

目的：市民に糖尿病の正しい知識を普及し、知るきっかけを提供するとともに、糖尿病の早期発見および重症化予防の重要性に対する理解を高める。

会場：小牧市中央図書館イベントスペース、ヘルスラボ・こまき

内容：講座や体験、相談コーナー

協力（予定）：小牧市医師会、小牧市民病院、市民活動団体CO-YOBOH



<昨年の体験コーナーの様子>



<昨年の講座の様子>

3：健康づくり関連イベント

④ 健康フェア（仮称）（1月予定）（ヘルスラボ・こまき、保健センター、健康生きがい推進課）

目的：市民の健康づくりにおける「きっかけづくり」「習慣化」の促進。

ヘルスラボ・こまきの認知度向上と利用促進。保健連絡員活動の周知。

内容：健康講座、各種測定・体験など。こども未来館ともタイアップした企画を検討中。

※今年度より、保健センターの健康フェアとヘルスラボ・こまきの周年イベントを同時開催とすることでより市民への健康づくりの普及啓発を効果的に行う。



<昨年のヘルスラボ・こまき一周年記念イベントの様子>

4：高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施

関連する分野別の取組

I ① 栄養・食生活
 ② 歯の健康
 ⑤ 健診・検診受診
 ⑥ 生活習慣病予防・重症化予防
 ⑦ フレイル対策

II. 社会で支える健康づくり

基本情報

(R 8. 4)

人口	147,787人
高齢化率	25.9%
後期高齢者被保険者数	23,290人
後期高齢者健診受診率	39.03%
日常生活圏域	6
一体的実施開始年度	令和2年度

後期高齢者の健康課題

- 【低栄養】 3食摂取しても体重減少を認める者が多く、BMI20以下の該当者は、増加傾向。特に85歳以上でこの割合が急激に高まっている。
- 【口腔機能】 85歳以上で咀嚼や嚥下の困難者が急増する。
- 【重症化予防】 HbA1c有所見者の割合が年々増加し、国平均を上回る。また、人口あたりの糖尿病性腎症患者数も県・国より多く、近年増加傾向。
- 【身体的フレイル】 80歳以降の身体機能低下が加速している。
- 【介護】 要介護認定状況は、要介護1～5では県や国より低いが、要支援1、2では県・国より高い割合である。

4：高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施

一体的実施の取組

ハイリスクアプローチ

低栄養	○
口腔	○
服薬（重複投薬・多剤投与等）	—
身体的フレイル（ロコモ含む）	○
重症化予防（糖尿病性腎症）	○
重症化予防（その他生活習慣病）	—
健康状態不明者対策	○

ポピュレーションアプローチ

健康教室・健康相談	①通いの場でのフレイルチェック・健康教育 ②まちかど運動教室 ③保健連絡員活動支援
フレイル状態把握	①②同上 ・フレイルチェックシステムの活用
相談できる環境づくり	・ヘルスラボ・こまき運営

4：高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施



- ✓ ハイリスクアプローチ（低栄養・口腔）の重複者への支援の開始
- ✓ ヘルスラボ・こまきを中心とした健康づくり（フレイル予防）の相談、
情報配信の展開
- ✓ 既存のサロン等通いの場を活用したフレイルチェックや健康教育の展開
- ✓ ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチの連携